

提言書

女性農林漁業者が いきいきと輝くために

いわて女性の活躍促進連携会議
「農山漁村で輝く女性部会」

令和3年2月5日

女性農林漁業者が いきいきと輝くために

いわて女性の活躍促進連携会議
「農山漁村で輝く女性部会」

令和3年2月5日

1 女性活躍支援の推進に係る体制

いわて女性の活躍促進連携会議「農山漁村で輝く女性部会」について

2 女性農林漁業者がいきいきと輝くために

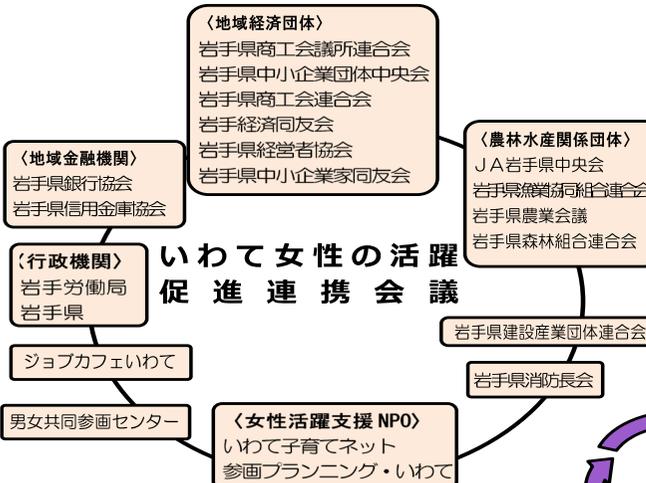
- (1) 部会の取組と成果
- (2) 提言

1 女性活躍支援の推進に係る体制

女性活躍支援の推進体制について

いわて女性の活躍促進連携会議

女性活躍推進のための各種施策、社会全体への理解促進等総合的に推進



女性活躍推進本部会議

いわて女性の活躍促進連携会議における協議結果を踏まえ、本県の施策の推進、情報収集、連絡調整

役割

- ① 本県における女性活躍支援に関する施策の推進に関すること
- ② 県における女性活躍支援に関する情報収集及び連絡調整に関すること

組織

本部長：知事
 副本部長：副知事
 本部長：企画理事、本庁各部長、医療局長、企業局長、教育局長、警察本部長及び広域振興局長

いわて女性活躍推進員

いわて女性の活躍促進連携会議 部会

分野ごとの取組を推進し、女性が活躍する取組を発信

防災部会 (総務部)

女性消防職員や女性消防団員の先進的な取組を紹介し、女性消防職員の活躍の推進や女性消防団員の入団の促進を図るとともに、女性にとって働きやすい環境づくりを促進する。

子育て支援部会 (保健福祉部)

女性が子育てをしながら働き続けることができる環境を整備するため、多様な保育サービスの提供や保育士の確保などに向けた取組の推進について、官民協働で検討を行う。

女性の就業促進部会 (商工労働観光部)

女性の就業促進と女性が企業等で活躍するための支援を中心のテーマとし、女性の起業促進に向けた意識啓発や支援策も併せて検討する。

農山漁村で輝く女性部会 (農林水産部)

農林漁業の振興と活力と潤いのある農山漁村の実現に向けて、女性のアイデアや能力を最大限に発揮できる環境を創造し、積極的に農林漁業経営に参画する「輝く女性」の育成に取り組む。

けんせつ小町部会 (県土整備部)

女性が働きやすい職場環境を整備することで女性の活躍支援を図るとともに、高齢化が進む建設業界の担い手の確保を促進する。

産学官連携サテライトミーティング (環境生活部)

分野横断の取組を推進

女性活躍に共通の課題となっている女性の人材育成や男女の意識改革などをテーマに、女性活躍の現状を情報提供する産業団体、女性のエンパワメントにノウハウのある大学、女性活躍の施策を担う市町村をメンバーとして検討を行う。

農山漁村で輝く女性部会の設置

設置：H29.4.27

目的：

**農林水産業に携わる女性の活躍促進、就
労・定着に向けて協議、意見交換、情報共
有を行う**

委員

大森 友紀子

(J Aいわて中央女性部フレッシュ部)

菅野 由加里

(気仙地方森林組合)

佐々木 久江

(岩手県農村青年クラブ連絡協議会)

菅原 紋子

(岩手県農業法人協会岩手アグリ新世会)

平子 幸子

(漁業)

高橋 愛

(有限会社 清水川養鱒場)

藤原 純子

(八幡平和牛女子倶楽部)

吉田 明子

(農事組合法人吉長ファーマーズ)

委員



相場 俊

(一般社団法人岩手県農業会議)



千田 淳

(岩手県農業協同組合中央会)



千田 健哉

(岩手県森林組合連合会)



町端 敦

(岩手県漁業協同組合連合会)



成田 恵美

(岩手県農山漁村女性組織連携会議)



鈴木 茂寿

(岩手県農林水産企画室)

農山漁村で輝く女性部会の取組

H29

H30

R1

R2

◆農山漁村における女性の活躍に向けた取組の検討

- ・「幸せ創る女性農林漁業者育成事業」の検討

◆女性が働きやすい環境づくりにおける取組検討

- ・「女性の就業促進部会」との意見交換
- ・女性活躍における先進企業への現地調査
- ・交流会等を通じた多様な主体との意見交換

◆R3以降の取組の方向性を検討

これまでの部会活動を踏まえ、女性農林漁業者が生き生きと輝くための方策をとりまとめ

2(1) 部会の取組と成果

取組1 女性の活躍に向けた事業の検討

～女性の活躍に向けた取組の方向性や事業内容を検討～

H29.8.2

◆「女性の活躍に向けた取組」の方向性について意見交換を行いました。



【方向性の検討】

・育児や介護と両立できるような環境を整えることが必要

・ネットワークづくりが大切であり、グループがあるとよい

・様々な分野の若手後継者や経営者と交流できるとよい



「幸せ創る女性農林漁業者育成事業」創設

取組 1 女性の活躍に向けた事業の検討

～女性の活躍に向けた取組の方向性や事業内容を検討～

H29.9.6／H30.3.22／H31.3.28／
R1.6.5／R1.9.17／R2.6.18／
R2.9.18

◆「幸せ創る女性農林漁業者育成事業」の内容について検討を行いました。



【事業内容の提案】

- ・新たなビジネス展開に向けた取組を支援する補助事業の創設
- ・女性が扱いやすい農業機械の改良・開発のため、メーカーへのニーズの伝達
- ・就業条件の改善に関する意識醸成のためのセミナー等の開催



具体的な取組として事業化

- 女性グループ活動への補助
- 女性が扱いやすい機械の改良・開発
- 経営者を対象としたセミナーの開催

取組 2 女性の就業促進部会との意見交換

～産業の枠を超えた連携を進め、アイデアやノウハウを共有～

H30.10.25

◆「女性の就業促進部会」と、
事業承継について抱えている
課題などを話し合いました。



【意見交換】

- ・一人で抱えないで、様々な分野の人に相談してみると視点が変わる
- ・共感できる仲間を増やすことが必要
- ・「家族」「家」にとらわれることなく形を変えていくことも必要

取組 2 女性の就業促進部会との意見交換

～産業の枠を超えた連携を進め、アイデアやノウハウを共有～

R2.7.14

◆女性が働きやすい環境づくりのため、経営者または従業員として工夫していることを話し合いました。



【意見交換】

- ・従業員が自分や家族の幸せのために働くことが、会社の利益
- ・家庭を優先してもらうような働きかけや職場の雰囲気づくりに配慮
- ・コミュニケーションを重視し、個々のライフスタイルに合わせた働き方ができるよう、会社の制度や体制を改善



個人を大切に考える考え方、課題を洗い出して改善につなげる取組は実践可能

取組 3 先進企業の現地調査

R1.8.21

株式会社サトウ精機

(H31いわて女性活躍認定企業等認定制度」認定企業)

◆女性が働きやすい環境づくりの取組をお聞きしました。



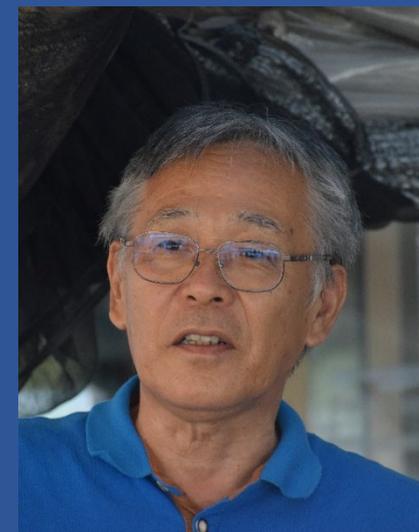
取組 3 先進企業の現地調査

R1.8.21

有限会社かさい農産

(H30農山漁村女性活躍表彰農林水産大臣賞受賞)

◆女性役員の登用や従業員の就労のあり方などについて、経営者・女性役員・若い世代の従業員と意見交換を行いました。



取組 3 先進企業の現地調査

【現地調査を終えて】

2つの会社に共通していること

■ 従業員の「幸せ」を第一に考えていること

➢ 皆が働きやすい環境を整えるための原動力になっている。

■ 作業マニュアルが整備され、共有されていること

➢ 作業手順を共有し、誰もが対応できる体制が、働きやすさ、休みやすさにつながっている。



取組 4 岩手で輝く女性交流会

～県内で活躍する女性が一堂に会し、業種を越えたネットワークづくりやそれぞれの活動を情報発信～

H30.2.8

◆女性が活躍しやすい環境づくりについて、グループごとに取組発表と意見交換を行いました。



R1.12.16

◆いわて女性の活躍促進連携会議5部会の報告を行いました。
◆女性の活躍について、グループワークを行いました。

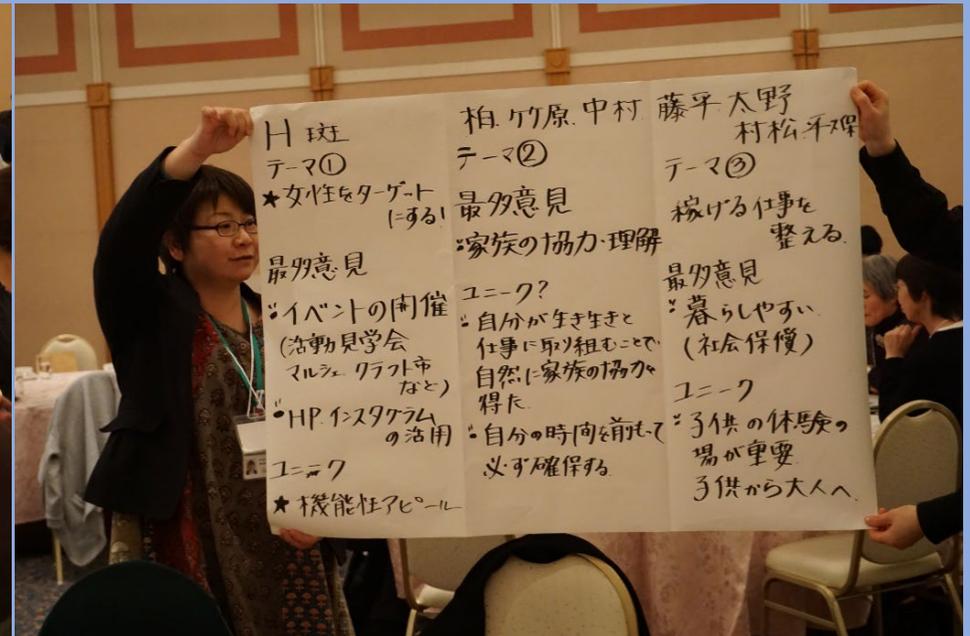


取組5 いわて農林漁業に携わる女性の交流会

H31.1.29

◆岩手県立大学の吉野先生をファシリテーターにお迎えし、グループワークを行いました。

- ・ 農林水産物の効率的なPR
- ・ 家庭と仕事の両立について
- ・ 若い人を地域に呼び込むために



取組5 いわて農林漁業に携わる女性の交流会

H31.1.29

◆各分野ごとに、専門知識を深めるための女子会を行いました。

農業女子会

講演会

「いちご狩り農園から始まった夢の
実現～農家女性の自立をめざして～」

有限会社ファーム花茶 取締役 小栗 美恵 氏



畜産女子会

講演会

「牛の飼養管理に
ついて」

岩手県農業共済組合
岩手県北基幹家畜診療所
損防課長 田高 恵 氏



林業女子会

事例発表

「県産白樺材を活用した手工芸品の
製作や商品開発」

女性グループ「White birch project」



取組5 いわて農林漁業に携わる女性の交流会

R1.10.31

- ◆「幸せ創る女性農林漁業者育成事業」に取り組むグループや農業高校の活動発表
- ◆ふろしき市の開催
- ◆事業承継士の伊東悠太郎氏による農林水産業の事業承継についての講演



取組 6 女性が扱いやすい農業機械の検討

H30.6.14 / 6.20 / 6.21 / 10.15 / R1.11.7

◆農業機械メーカーや大学などと連携し、女性が扱いやすい農業機械の改良・開発について検討を行いました。



取組 6 女性が扱いやすい農業機械の検討

R2.11.6

◆農業機械メーカーや大学などと連携し、女性が扱いやすい農業機械の改良・開発について検討を行いました。



取組 6 女性が扱いやすい農業機械の検討

【意見交換】

■ メーカーから

- ・ユーザーとの意見交換により新たな気づきを得られた。
- ・メーカー側の意図を十分に伝えられていないことがわかった。機能などについてしっかりPRしたい。
- ・引き続き要望を聞き取りし、可能な限り対応していきたい。

■ 武田教授(岩手大学)から

- ・メーカーに意見を伝えていくことは重要。
地域ごとに集まって話し合いをし、意見を伝える仕組みができればよい。
- ・安全に機械を使っていく上で、普段からの危機管理が必要。
メーカーから指導を受けるなどして、とっさの時に対応できるよう日頃から準備しておくこと。



《検討に参加した農業機械メーカー》
(株)牛セキ東北岩手支社、(株)丸山製作所、
(株)みちのくクボタ、やまびこジャパン(株)、
和同産業(株)

取組 6 女性が扱いやすい農業機械の検討

H30

◆女性農業者の意見を参考に、「農業機械の取扱ガイドブック」が作成されました。

女性が知りたい農業機械の
取扱ガイドブック



2019. 1
発行：岩手県農林水産部農産園芸課

《刈方の説明 2》

草詰まりや巻き付きは、エンジンを止めてから取る
逆復刈り、大振りはしない

⇒ キックバック（障害物で機械が跳ね飛ばされる現象）を防止

刈の量が多いときにはエンジン回転、刈幅、前進量などを調節して、一振りあたりの刈る量をあまり多くしない



キックバックに注意



エンジンを止めてから！

24

取組 7 農業機械作業の知識・技術の習得

H30：9回（参加者104名）／R1：9回（参加者81名）

◆農業機械の操作研修について、実施内容等を検討し、検討結果を
基に研修会が実施されました。



活動を振り返って

他産業の方、若い方からみた農林水産業のイメージを知って

■ 気付かされたこと

- 農林水産業の仕事について、きちんと理解されていない
- 「大変そう」「儲からない」というイメージが強い
- 正確な情報の発信や前向きなPRが必要
- しっかりとした環境があれば、若い世代に選ばれる職業になる

■ 農林水産業のよさや利点などについて再認識したこと

- 大自然と向き合う仕事ができること
- 比較的「自由」が効くこと。臨機応変な対応がしやすく、子育てと両立しやすいこと
- 地域に支えられ、地域を守るという使命があること

2(2) 提言

～女性農林漁業者がいきいきと輝くために～

1 農山漁村地域に
おける意識の変革

2 働きやすい
環境づくり

3 情報発信

4 これからさらに
取り組みたい分野

提言

1 農山漁村地域における意識の変革

お互いを尊重できる“地域全体”の意識変革

① 多様な人材を柔軟に受け入れられる体制づくり

- ・ 様々な立場の人が参画できるような地域全体の意識変革
- ・ 若い世代が参画できるよう、親や地域が後押し
- ・ 多様化する就業者に配慮した受入体制やサポート

② 女性が参画できる環境づくり

- ・ 女性が過重負担にならないような体制
- ・ 技術や経営力の向上に向けたキャリアアップ

提言

2 働きやすい環境づくり

個人を大切にしたい誰もが働きやすい環境づくり

① 家族で話し合う時間を大切に

- ・ 日々のコミュニケーションが基本
- ・ ライフステージに応じた家族経営協定の見直し

② 具体的な取組方法を明確に

- ・ 働きやすい環境を整えるために何をどうすべきか、具体的な手法を明確化
- ・ 環境整備のための取組への支援

3 情報発信

前向きな”新3K“でPR

① 農林水産業に関する正しい情報を発信

- ・ “大変” “儲からない” “女性が働きにくい”といった誤った情報、マイナスイメージを払しょく

② 魅力ある農林水産業を発信

- ・ 人の命や生活を支えるやりがいのある仕事であること、スマートで楽しい仕事であることを、農林漁業者のいきいきと輝く姿を通して発信

4 これからさらに取り組みたい分野

① コロナ禍を機とした新たな取組

- ・ インターネット等による新たな販路開拓
- ・ リモートを活用した研修などによるキャリアアップ

② 負荷の軽減につながる取組

- ・ 労力軽減につながる新しい技術の習得
- ・ 農林漁業者だからこそできる持続可能な社会に向けた取組

おわりに

以上の事柄の実現に向けて

- ・ 部会として具体的な活動を実施
(先進地調査や学生・地域との意見交換など)
- ・ 必要な取組が実施できるよう県とともに検討

将来、「女性の活躍」などと謳わなくても、皆が当たり前前に輝ける社会の実現に向けて、引き続き、取り組んでいきたいと思えます。